

SDGs未来都市かめおかの取り組み

◆環境先進都市かめおか

亀岡市では、市の中央を流れる保津川のごみ問題から端を発して2018年には「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」を行い、その後、全国で初となる「プラ製レジ袋禁止条例（亀岡市プラスチック製レジ袋の提供禁止に関する条例）」を制定しました。現在も、自然環境の保全と地域経済の活性化を一体的に取り組む『世界に誇れる環境先進都市』に向けて、さまざまな取り組みを進めています。

◆オーガニックビレッジ

亀岡市は、古くから「京の台所」として、また、現在でも京野菜の主要産地として、京都の農業において大きな位置を占めています。持続可能な食と農を生産から消費までの食料システム全体で進めていくために、本市の特徴を活かした取り組みを積極的に進めていく必要があります。

本市は、給食へのお米を始めとする有機農産物の導入や生産者の育成など、有機農業を推進することで、次代を担う子どもたちに豊かな自然と食、農を引継ぐために、全国で2番目（2023年2月13日）にオーガニックビレッジを宣言しました。

◆子どもファースト宣言

2022年8月22日に子どもファーストを宣言しました。

子どもファースト事業として、(1)こども医療費18歳まで拡大と無料化(2)保育料第2子以降全て無料化(3)保育園・幼稚園・こども園でおむつの提供、処理の無料化(4)放課後児童会の一家庭2人目以降無料化、平日午後7時まで延長、土・日曜日の実施など子育てしやすいまちづくりに向けて先行して実施しています。

◆かめおか霧の芸術祭

亀岡市では、暮らしの中にある美しさや受け継がれる技や知恵など目に見えないものも芸術として捉え表現する「かめおか霧の芸術祭」を2018年から行っています。

芸術の枠にとどまらず、環境、農業、教育など、さまざまな地域課題の解決に取り組む数多くのプロジェクトを行い、「経済」「社会」「環境」の3つの側面を持つ芸術祭としてその取り組みが評価され、2020年7月には亀岡市の政策提案『かめおか霧の芸術祭×X（かけるエックス）～持続可能性を生み出すイノベーションハブ～』が内閣府より「自治体SDGsモデル事業」の一つに選ばれ、アートをハブにしたさまざまな取り組みを進めています。

経済、社会、環境のバランスが大切！



参考資料：
Stockholm Resilience Center,
Stockholm University

かめおかSDGs 未来都市計画 ダイジェスト

KIRI かめおか霧の芸術祭 × X（かけるエックス）
Kameoka KIRI Art Cultivation

～持続可能性を生み出すイノベーションハブ～



2030年 わたしたちが目指す街の姿

◆JR亀岡駅周辺の活性化～消費・投資・イノベーションが活発な都市～

スタジアムからJR亀岡駅周辺では、多様な人々が集い、通常の商業店舗に加え、市内外の客の目的地となりうる店舗やアナログな工房、デジタル領域のイノベーションを進めるラボが存在し、にぎわう街の中心部に市内どこからでもアクセスできる都市にします。市民や事業者が地域経済やコミュニティに参画し、再生可能エネルギーや地元産品の「地産地消」や、特色ある製品による外貨獲得が進み、市の財政構造を支える強い産業構造を実現します。

◆農業の維持 ～自然とともに暮らす都市～

国土保全や食の安全の観点から、土地の豊かさを象徴する農業や魅力あふれる自然景観を維持すべく、その体験を価値化する観光事業や芸術を農業と合わせて振興し、共感する人々を集め、強い農業コミュニティを維持します。同時にオーガニックビレッジ宣言を行い、有機農業の推進を行うことで、亀岡の農の魅力の発信や農産物の販売を積極的に行い、持続的に資金を調達します。

◆世界に誇れる環境先進都市の実現 ～ごみを極力出さない社会～

プラごみゼロを目指します。環境関連テクノロジーの進歩なども積極的に取り入れつつ、誰もが取り組める資源化の仕組みづくり、排出源対策、回収強化など、市民・事業者・行政の三者連携を進めることでサーキュラーエコノミー（循環経済）の実現を目指します。また、ごみを徹底的に減らし、ごみ処理費用を大幅に削減し、将来世代にとって負担となる「ごみ処理施設」を新たに作らない地域社会を実現します。

◆子育てしやすいまちづくり ～すべての子どもたちが光り輝く笑顔あふれるまち～

地域の中で子どもを優しく温かい目で見守り、亀岡ならではの様々な体験を応援することで、子どもたちにふるさとを想う気持ち、住み続けたい、戻ってきたいまちとしての想いを育みます。また、子育てを応援することで、一人より二人、二人より三人、もう一人子どもを産み育てたい、そんな想いが持てる魅力的で可能性のあるまちを実現します。

